

令和5年度 泉が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤に，個性豊かで情操に富んだ人間として，平和で民主的な社会の発展に貢献する生徒を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ・ 情操や感性が豊かで個性のある生徒
- ・ 自主的に学び創造性に富む生徒
- ・ 心身ともに健康で実践力のある生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（1）あいさつができ，いじめのない，居がいのある学校を目指す。

（2）自主性を尊重し，生徒や教職員の良さが十分に活かされる学校を目指す。

（3）保護者や地域から信頼される，開かれた学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）○体力の向上を図り，主体的に行動できる能力・態度の育成に努める。

（2）○心豊かな人間性の育成に努める。【重点】

（3） 確かな学力の定着を図り，学習意欲を高める授業の確立に努める。

（4） 小中一貫教育と地域学校園の取組の円滑な推進に努める。

（5） 持続可能な社会を目指しE S Dを推進する。【重点】

（6） 働き甲斐のある職場づくりの推進に努める。【重点】

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり，進んで学び合う児童生徒の育成

～ 学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉 ～

4 教育課程編成の方針

（1）「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「令和5年度指導の重点」を踏まえ，本校教育目標が達成できるよう全職員の理解と協力によって編成する。

（2）新中学校学習指導要領改訂のポイントである「社会に開かれた教育課程」「これからの時代に求められる資質・能力」「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学び」を踏まえる。

さらに，教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るため，教育課程全体において，教科横断的な視点からの指導のねらいの具体化や，教科等間の指導の関連付けなどを推進する。

（3）「G I G Aスクール構想」推進に向けて1人1台端末の本格的な活用を積極的に進めていく。

（4）生徒の調和のとれた育成を目指し，学校の実態及び生徒の心身の発達段階を十分に考慮する。

（5）宇都宮市の小中一貫教育の趣旨を生かし，泉が丘地域学校園内の小学校と連携しながら，創意工夫を生かした特色ある教育，特色ある学校づくりを進めるような編成を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ・専門職としての自覚を高め、常に組織的な対応に努める。 ・子どもと向き合う時間を確保するために、校務の工夫改善及びスリム化を図る。 ・教職員の時間管理を徹底し、勤務時間を意識した働き方を推進する。
(2) 学習指導 ○基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力や、自分で考え判断し、表現する力を育成するとともに、目標を持ち、自ら学ぶ意欲を育む。 ・総合的な学習の時間などで、E S Dの理念を生かした学習活動を取り入れる。
(3) 児童生徒指導 ○心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する。 ・不登校、いじめの未然防止を図るため教育相談を充実させるとともに、不登校の解消を図るため生徒個々の状況にあわせて柔軟に対応する。
(4) 健康（保健安全・食育）・体力 ○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。 ・自己の体力の現状を具体的に把握させ、積極的に自己の体力を伸ばしていこうとする態度を育てる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒が自分の思いや考えを自由に言える雰囲気づくりを行い、思考力・判断力・表現力を育む。 ・タブレット端末や学校図書館を利用した情報収集の機会を増やしたり、グループ学習の機会を増やし「意見を出し合い、共に考え合える」場を設定することで主体的な学習態度を育む。		【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学校行事等との関連を図った別の教科道徳の授業を実施し、人権を尊重する心や思いやりの心を育てる。 ・人権教育や福祉教育の充実を図り、障がいをもった方や高齢者への理解と共生への意識を高める。 ・「<u>相手がどのような気持ちか</u>」を<u>考える力、共感できる力を重視し、常に感謝の気持ちを持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。</u>		【達成状況】 【次年度の方針】

	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・「キャリア・パスポート」の効果的な活用法について、地域学校園内の小学校との連携を図り、中学校卒業後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるよう創意工夫を活かした形で整備を進める。 ・学習や部活動、学校行事等に目標をもって取り組ませ、振り返りを行い次に生かせるようにする。 ・目標に向けて努力することの素晴らしさを、全教育活動の中で伝え、目標達成に向け努力する生徒を認める。	【達成状況】 【次年度の方針】
1－(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学級活動、給食指導等で、栄養バランスが大切であることを理解させ、地域学校園お弁当の日の指導を通して、実践化を図る。 ・小中一貫の検定や保健体育の授業を通して、運動に対する意識を高めていく。 ・熱中症や光化学スモッグ注意報をはじめとする各種の情報をもとに的確に判断し行動するようにする。 ・生徒会専門委員会（保健委員会、給食委員会、安全委員会、体育委員会）活動の更なる活性化を図り、生徒の健康や安全に対する意識を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
1－(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒がきまりやマナーを守って学校生活を送り、学校行事・生徒会行事・各種委員会等において、活躍する姿を称賛し、内外に知らせていくことで、生徒一人一人に自信を持たせ、より積極的な活動を促していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
2－(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・恥ずかしがらないで、まず声に出していけるように、非言語コミュニケーションを英語の授業以外でも積極的に取り入れる。 ・教科書の言語材料を活用し、リスニングやスピーキングの練習を丁寧に行い、さまざまな音調に慣れさせる。 ・学校生活や修学旅行で、積極的に英語で話しかけることができる態度を育成する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・社会科や理科、総合的な学習の中で宇都宮市の地域教材を扱うことで、地域への理解を深める。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加させることにより、地域や宇都宮の良さに触れさせる。 ・大谷石文化が日本遺産の認定を受けたことや多くの〇〇の街宇都宮に触れさせることで、宇都宮の良さに気づかせる機会を増やせるように、図書だよりでの紹介や学校内外の環境整備を進める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2－(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・総合的な学習や各教科の授業で、インターネットやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを活用して、学習を進める機会を増やす。 ・学校図書館を調べ学習のベースとして活用できるように、教育課程と関連付けて図書の準備を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・「持続可能な開発目標」とは具体的にどのようなものなのか、SDGsの「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」の理解を深める。 ・生徒会の各専門委員会の活動の中で、持続可能な社会実現のためにできることを考え行動に移させる。 ・社会科や理科、技術・家庭の授業において、エネルギーやリサイクル等についての理解を深める。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・特別支援学級の生徒はもとより、通常の学級の生徒の実態もより丁寧に把握し、個々のニーズや実情に合った支援計画を作成して、保護者等と合意形成を図りながら、個別の支援が必要な生徒への合理的な配慮を行う。 ・個々に必要な支援を的確に捉え、かがやきルームや日本語教室の適正な運用を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・「いじめアンケート」や教育相談の実施、スタンダードダイアリーの活用等、いじめ防止対策についての取組を継続し、会議等での情報交換により、いじめの早期発見に努める。 ・「いじめゼロ強調月間」や日常において、いじめの未然防止を行うとともに「いじめアンケート」を実施し、必要に応じて適切な指導・助言を行い、自己肯定感、他者信頼感を育てる。 ・学校の取組や生徒の思い等を、積極的に情報発信していくとともに、学校行事や生徒会活動等と関連づけて理解を深めてもらえるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上	・生徒が自己肯定感をもって、居がいのある学級づくりを目指し、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・教育相談、各種アンケート、Q U調査を活用し、不適応傾向のある生徒の早期発見と早期対応に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・生徒が自己肯定感をもって、居がいのある学級づくりを目指し、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。 ・外国人生徒への共通理解を図り、必要なニーズに応じた支援を、全校体制で行えるようにする。特に、進路指導については、外部との連携を深める。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・一人一授業における振り返りを大切にし、教員の更なる授業力向上に努めるとともに、タブレット等のICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図るとともに、<u>ねらいの提示と振り返る活動により、生徒一人一人が主体的に取り組める授業づくりを進める。</u> ・教科・学年・クラスの実態に応じて、習熟度別学習やT・Tを適宜取り入れた授業を行い、個に応じた指導に当たる。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・SC, MS, ALT等をとの連携・協力を図り、教職員の業務改善を図るために学校の教育活動において有効に活用する。 ・週1回及び月1回の学校リフレッシュデーを継続することにより、教職員の学校業務に対する意識を変えていく。 ・校務分掌や学年の枠を超えて、今必要な仕事は何かを考え、協力できるような学校風土づくりを行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (3) 学校における働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・出退勤管理により、一人一人が勤務時間を意識し、校務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ・校務分掌のデータの再整理を行い、全職員がポータルサイトからすぐに活用し、校務を効率的に処理できるシステム構築を進める。 ・学習情報システムをはじめとした、学校に導入されているシステムの効果的な活用を進める。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上	・越戸川せせらぎ通りや駅東公園清掃美化活動の充実をはかるために、継続して小学校との連携を図っていく。 ・事務・図書館司書・養護教諭を中心に、地域学校園相互の支援体制を充実させる。 ・乗り入れ授業において、小学校との連絡、調整を密にして、学習指導や生徒指導に関する各部会の活動の活性化を推進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・家庭や地域社会との連携を図り、各種のボランティア活動に積極的に参加させる。 ・地域コーディネーターやコミュニティーセンターとの連携を図り、学校支援ボランティアや地域人材を活用した諸活動を推進する。 ・学校だよりや地域協議会だよりで、学校の取組や生徒の様子などを発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】

6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 地域住民肯定的回答 80%以上	・定期的な安全点検のみならず、日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者それぞれが気づいた点を共有し、改善していけるようにする。 ・防火・防災計画、危機管理マニュアルに基づき、不測の事態に対しても随時対応できるようにする。 ・友遊クラブとの密な連携を図り、学校開放を円滑に進めることができるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・WIFI 環境の有効活用やタブレットの利用方法等について研修を進め、<u>各教科の授業や総合的な学習に、積極的にICT機器を活用した授業を展開する。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒会を中心としてあいさつ運動や、地域学校園の小中合同あいさつ運動の取組を発展させ、あいさつの習慣化を図る。 ・教職員から率先してあいさつを行うことで、生徒のあいさつへの意識を高める。 ・登下校指導を通して、地域や小学校との結びつきを強め、地域全体であいさつができる雰囲気作りを行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・入学時における新入生に対する指導を徹底するとともに、学校の決まりに関する教職員の共通理解を図る。 ・生徒指導部を中心とした指導を常日頃から実施し、生徒の規範意識を高める。 ・きまりやマナーを守って学校生活を送っていることを、教職員が称賛したり、生徒相互に認め合ったりする機会を数多く設け、実践意欲を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 学校は地域の小学校や高等学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育んでいる。 【数値指標】 生徒 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・特別の教科道徳や学級活動、総合的な学習の時間と連携を図り、生徒の意識を向上させ、既存のボランティア活動を生徒に一般公募する。 ・学級活動や総合的な学習の時間などで、どのようなボランティア活動ができるかを考える機会を設け、実践できるようにする。 ・小・中・高校の連携やボランティア活動の様子を積極的に情報発信することで、本校の取組を広く周知することで、生徒の良さを地域に伝えていけるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。